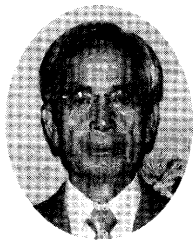
中友会

［発行所］
中　友　会
港区西新橋1-22-13
全日本中学校長会館202号室
東京都中学校長会事務局内
TEL　03-3504-8705
FAX　03-3504-8706

会則第２条
- 親　睦
- 互　助
- 生涯学習

http://chuyu-kai.org/

令和の時代の中友会像を



中友会会長　宇津木　順一

新しい元号、令和の時代がスタートしました。私ごとですが、五月一日の朝、まどろみの中、ふとこんな言葉が浮かんできました。「国ひらく　ゆかしきにおい　立ちこむる　光の中に」。突然に浮かんだ言葉に自分でも不思議に思いながら、校歌のようだが、母校の小学校か、中学校か、などと考えているうちに、目が覚めてきて中学校の校歌であることに気づきました。でも、少し変だと思ううちに、「国ひらく」ではなく、「梅ひらく」であり、「梅ひらく　ゆかしきにおい　立ちこむる　光の中に　素朴なる　若き心を　やしないて　つどいおさめん　わが友よ　きそういまこそ」という歌詞が思い浮かびました。

新しい元号「令和」は、万葉集の梅花を観賞し詠った三十二首の歌の序文から採ったということですが、その序文の最初には「初春の令月にして　気淑く風和ぎ　梅は鏡前の粉を披き　蘭は佩後の香を薫す」と記されています。この序文が、校歌「梅ひらく　ゆかしきにおい　立ちこむる　光の中に」とぴったり通じるように思えました。令和と校歌が万葉集を通じてつながっている、古代の人々の心がうたを通して現代に繋がっている、ふとそんな風に感じられ、校歌についての理解を深めることができました。こんな私的なことを記したのは、日本の文化の奥深さとともに、それが人々の不断の学びを通して伝承していくのだと思い、生涯が学習だとの思いを強くしたからです。

さて、令和元年六月一日、令和元年度中友会定期総会が開催されました。恒例の六月第一土曜日、東郷神社境内の水交会で、多くの皆様にご出席いただき、盛会に無事に開催できました。

この一年を振り返ってみますと、吉田幹事長を中心に幹事の皆さんの大変な努力と会員の皆様のご協力をいただき、事業計画に沿ってほぼ予定通り活動を進めることが出来ました。ただ一つ、伝統ある宿泊研修は参加者が少なくやむなく中止いたしました。魅力ある研修場所の選定や高齢化による参加の難しさ、会員の皆様の行事に対する関心の問題などがあったように思います。これらの問題は、これからの会全体の運営や活動にも関わる課題であると考えます。

今年度の事業活動ですが、中友会では毎年実施する事業と三年サイクルで実施するそれぞれの年度の重点事業があります。今年度の重点事業は会員名簿の改訂作業です。名簿は組織の基盤になるものであり、正確な名簿により会報等、会の情報を会員の皆様に確実にお届けすることができます。また、会員相互の消息を知る基本になるものです。正確な名簿の作成に努力して参ります。お手数をおかけすることがありますが、ご協力いただきたいと存じます。

毎年実施している事業では、研修会の工夫改善、会報の充実、組織の活性化など、前例に頼るだけでなく、新たな工夫も加えて進めたいと考えます。

ご承知のように、今、校長先生方の定年退職後の生活が従来と大きく変化する中で、中友会では、幹事の委嘱に大変苦労しています。本年度は、現在、８名体制で運営していますが、幹事の一人一人にかかる負担が大変重くなっています。この課題を含めて、七月二日現在一九〇六名の会員を擁する、これからの中友会の組織運営や活動について、今見直し検討しています。新しい時代の新しい中友会の在り方、中学校長経験者に相応しい令和の時代の中友会像をどう描いていくのか、大変大きな課題ですが、さらに検討を進めて参ります。会員の皆様からも、広い視野、視点から中友会の運営や在り方についてご意見をいただきたいと存じます。

中友会を盛り上げていくには、まず会の活動に多くの皆様に参加していただくことが大切です。ぜひ諸行事等に関心を深めていただき、率先してご参加いただければ有り難いと存じます。

新しい時代を迎えました。

本年度もどうぞよろしくお願いいたします。